

延命地蔵

延命地蔵尊を祀るこのお堂は、輪王寺開祖・勝道上人（西暦 735-817）によって建立されました。もともとは山深い場所の湯ノ湖畔にあり、「犬引き地蔵（Dog-pulling Jizo）」としても知られています。

伝説によると、板橋将監という室町時代の領主が湯ノ湖の近くに狩猟に出かけた際、ちょうど通りかかり、地蔵をからかったといいます。板橋将監は自分の犬を地蔵に結び、地蔵と犬を湯ノ湖に投げこみました。最初犬は、湯ノ湖の中心に向けて地蔵を引っ張りましたが、そのあとで今度は、地蔵が犬を湖畔の方に引っ張って戻してしまいます。するとたちまち、激しい雷雨が発生し、犬が死んでしまったということです。

板橋将監とその臣下は直ちに地面に体を伏せた。口からは血がただれ落ちたといいます。すると一人の僧侶が走ってきて、地蔵の前で膝をついて祈祷をしました。そうすると板橋将監とその臣下の命は助かり、今度は地蔵を熱心に敬うようになりました。それ以来、この地蔵は“犬牽き地蔵”としても知られるようになったといえます。